

パスパ文字による<モンゴル>の表記

中村雅之

1. パスパ文字の規範性

13-14世紀に通行したパスパ文字は、概略的には非常に規範化された表記体系をもっていた。どのような資料においても同一の語は同じ綴りで表記されるのが原則になっている。いくつかの語においては---特に「k'」と「g」や「e」と「é」において---綴りに若干のゆれはあるが、表記の規範化は言語を超えて徹底している。例えば、漢語に由来する語彙はモンゴル語文にあっても漢語文と同様の綴りになるのが原則である。道教の「道士」を意味するモンゴル語は漢語の「先生」に由来し、ウイグル文字モンゴル語では通常「singsing」であるが、パスパ文字モンゴル語では「sen-šhiŋ」となり、パスパ文字漢語における「先」および「生」と同じ綴りになる。逆に、モンゴル語に由来する「達魯花赤」(地方の監督官)はパスパ文字漢語文においてもその漢字音によらず、「da-ru-qa-č'i」とモンゴル語の綴りのままに綴られることになる。本稿で扱う「モンゴル」も同様で、パスパ文字漢語文においても「moŋ-qol」と綴るのを原則とする。

2. 三種の表記

「モンゴル」については、「moŋ-qol」が原則であるが、ほかに「muŋ-gu」と「moŋ-yol」という表記があることも知られている。すなわち、「モンゴル」に対するパスパ文字の表記は三種存在する。「moŋ-qol」は標準的な綴り、「muŋ-gu」は「蒙古」の漢字音表記、「moŋ-yol」はやや特殊な綴りということになる。

まず、「moŋ-qol」であるが、各種官印に見られる。『元代印風』²には、この綴りを持つ官印が二種収められている。一つは「宗仁蒙古侍衛親軍都指揮使司百戸之印」(p.42)で、「juŋ-žin-moŋ-qol-ši-'uè-c'in-geun-du-ji-heuè-šhi-shi-b(a)y-yu-ji-yin」と綴られている。もう一つは、「東路蒙古侍衛親軍百戸印」(p.44)で「duŋ-lu-moŋ-qol-ši-'uè-c'in-geun-b(a)y-yu-yin」と綴られる。いずれも「moŋ-qol」の部分以外は『蒙古字韻』に見られるような規範的な漢字音表記である。

次に、「muŋ-gu」は同じく『元代印風』p.51の「陝西四川蒙古軍都万戸府印」に「šëm-si-shi-č'uen-muŋ-gu-geun-du-van-yu-fu-yin」とある。

最後に、「moŋ-yol」は『蒙古字韻』にのみ見られる綴りで、その書名のパスパ文字表記が「moŋ-yol-chi-'üin」と記されている。

3. 「muŋ-gu」について

「モンゴル」を「蒙古」の漢字音で記す「muŋ-gu」という綴りはかなり珍しいものである。『元代印風』の「陝西四川蒙古軍都万戸府印」には背刻の拓影も載っているが、そこには「宣光二年五月 日」の年記が見える。つまり、この印は北元時代の1372年のものである。したがって、元朝の官印では

¹ パスパ文字のローマ字転写は、吉池孝一 2005「パスパ文字の字母表」『KOTONOHA』37. による。

² 黄惇主編 1999『中国歴代印風系列 元代印風』重慶出版社。

「moŋ-γol」であったが、北元時代の官印では「muŋ-gu」が(あるいは「muŋ-gu」も)用いられたものと考えられる。この時期にモンゴル宮廷が相当に漢化していたことの反映なのか、あるいはこの官印の作製においてのみ偶発的に生じた例であるのか、未詳である。

4. 「moŋ-γol」について

モンゴル語においても、漢語においても、「γol」というパスパ文字表記は通常用いられない。その意味で「moŋ-γol」という綴りは極めて特殊である。したがって、『蒙古字韻』においてなぜ「moŋ-γol」という綴りが用いられたのかということが問題になる。

13-14 世紀のモンゴル語における「モンゴル」の発音は概略[məŋgɔl]のようであったと思われる。パスパ文字の「q」はモンゴル語の[q]と[g]の双方に対応するため、通常のパスパ文字の綴り「moŋ-qol」では確実に[məŋgɔl]を表すことができない。そこで有声音[g]を明示するために「moŋ-γol」という綴りを考案したと考えられる。

パスパ文字「γ」はモンゴル語では通常用いられないが、漢語では匣母の表記として用いられる。匣母は韻図のカテゴリーとしては曉母の濁音である。元代の北方漢語では曉母・匣母ともに/h/であるが、当時の呉方言あるいは南方讀書音では曉母/h/にたいして匣母/fi/であった³。文字の形態から見れば、パスパ文字「γ」は明らかに「q」を變形して作った文字であるから、モンゴル語の[g]を示すのに「γ」を用いるのは発想として理解しやすい。

この「moŋ-γol」という表記は、パスパ文字が[q]と[g]を区別しないことに納得できない者が当時もいたことを示す例として興味深い。

³ 当時の南方讀書音は具体的には『書史会要』の「いろは」の音注などに見られる。